公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

2023 年 5 月 30 日 14:00 解禁

報道関係各位

プラスチックの問題と海鳥を解説した小冊子

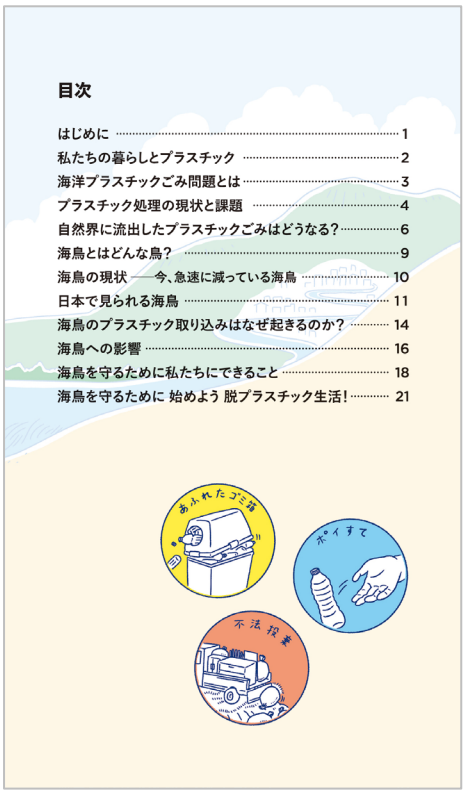
市民グループ、自治体、教育機関(中・高・大)などに無償配布します！

今、私たちの身の回りで数多く使われているプラスチックの一部が自然界に流出し、海鳥をはじめ多くの海洋生物に影響を及ぼしています。(公財)日本野鳥の会では、近年、数を大きく減らしている海鳥へのプラスチックの影響を減らすために、2018 年よりこの問題に取り組み、普及啓発、海鳥への影響調査、政策提言などの活動を行っています。

このたび、**小冊子『海鳥を守るために 始めよう 脱プラスチック生活！』**を制作・発行し、配布を開始しました。

この小冊子は、生活者である私たちが、海洋プラスチックごみの問題について理解を深め、プラスチックの利用の仕方を見直し、持続可能な社会に向けてライフスタイルを転換することをめざし、制作したもので、プラスチックの問題の背景や現状、海鳥についての解説と海鳥への影響、海鳥や海洋環境の保全のために、私たち一人ひとりができることについて紹介しています。

▲小冊子の表紙と内容の一部



目次

はじめに …… 1
私たちの暮らしとプラスチック …… 2
海洋プラスチックごみ問題とは …… 3
プラスチック処理の現状と課題 …… 4
自然界に流出したプラスチックごみはどうなる? …… 6
海鳥とはどんな鳥? …… 9
海鳥の現状 ――今、急速に減っている海鳥 …… 10
日本で見られる海鳥 …… 11
海鳥のプラスチック取り込みはなぜ起きるのか? …… 14
海鳥への影響 …… 16
海鳥を守るために私たちにできること …… 18
海鳥を守るために 始めよう 脱プラスチック生活! …… 21

海鳥を守るために私たちにできること

海鳥を守るために、まず私たちができることは、この問題に関心を持ち、正しい情報を得ることです。そして、野外で小さなごみがもたらす大きな影響について想像してみて下さい。今後、海鳥が、プラスチックごみを避けてエサを捕ることや汚染された海域を避けることは考えにくく、誤飲や体内への蓄積を減らすために有効な対策は、プラスチックの使用量を減らし、野外への流出を防ぐことです。

プラスチックごみを減らす3つのR

Reduce＞Reuse＞Recycle

まずは、Reduce（削減）。使い捨てプラスチックの使用を避けることが大事です。

- Reduce（リデュース、削減）：プラスチックの使用を減らす
- Reuse(リユース、再利用）：繰り返し使う
- Recycle（リサイクル）：資源として再利用する

ふだんの暮らしの中で、まず、プラスチックごみの大部分を占めている使い捨てプラスチックの使用量を減らし（Reduce）、ルールに従って適切な分別や回収を行ない、ごみを野外に出さないこと、そして、現在あるものを長く大切に繰り返し使い（Reuse）、資源としての再利用（Recycle）をすすめてみて下さい。

なるべく使い捨てプラスチック製品を購入しないようにし、環境への負荷が少ない天然素材やサステナブルな素材のものを選んだり、ふだんの生活で、包装材の少ないものや量り売り、バラ売りのものを選んでいくことも大切です。そして、こうした活動を広げていきましょう。

大切なのは自然への気配り。

これ以上、プラスチックごみが海に入り、海鳥や海洋環境を汚染することがないよう、私たちにできることを一刻も早く始め、海鳥が飛び交う青い海を取り戻すために今日からチャレンジしてみませんか。

▲小冊子の目次と内容の一部。全 21 ページ、18×10.5cm

■小冊子をご希望の団体に無償配布します！

当会では、全国各地のプラスチックごみ問題に関心のある**団体、施設、自治体の担当部署、教育機関（※中学・高校・大学）など**に活用していただければと考えています。

■こんな活用法があります

・自然観察会やごみ拾いなどイベントを開催する市民団体の活動資料として
・海洋プラスチック問題の勉強会の資料として
・教育機関では夏休みの課題や自由研究の教材として

＜お申込み方法＞

以下の申込フォームに必要事項をご記入の上、お申込みください。

https://form2.wbsj.org/plastic-pamphlet

※お申し込みは 10 部単位で受け付けております。また、配布予定数がなくなり次第終了します。

●海洋プラスチック問題に対する(公財)日本野鳥の会の取り組み

(公財)日本野鳥の会では、数を大きく減らしている海鳥へのプラスチックの影響を減らすために、普及啓発、海鳥への影響調査、政策提言の活動等を進めています。

普及啓発では、プラスチックの問題の理解を深め、正確な情報を多くの方に知っていただき、プラスチックの使用削減や個人の生活の中でできることを伝えるウェビナーを 2021 年以降開催しており、ごみを出さない暮らしを心がける意識の普及を行なっています。海鳥への影響調査では、伊豆諸島で繁殖するカンムリウミスズメやオーストンウミツバメ等の海鳥への有害化学物質の蓄積の有無、利用海域の把握を研究機関と共同で進めています。政策面では、「減プラスチック社会を実現する NGO ネットワーク」の一員として、プラスチックの削減やリユースの推進を提言しています。

当会の取り組みの詳細についてはこちら

https://www.wbsj.org/activity/conservation/law/plastic-pollution/

■日本野鳥の会　組織概要

組織名：公益財団法人 日本野鳥の会（会員・サポーター　約 5 万人）

代表者：理事長　遠藤孝一

所在地：〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

URL：https://www.wbsj.org/

■本件に関するお問い合わせ先

（公財）日本野鳥の会担当：自然保護室　山本裕／手嶋洋子

電話：03-5436-2633　（月～金　10：00－17：00）　E-mail：plastic@wbsj.org